

**歯学部・歯学研究科**

I 研究水準	.....	研究 7-2
II 質の向上度	.....	研究 7-3

## I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、高度の口腔科学研究を推進しており、教員一名当たり年 3 編以上の業績を上げている。また研究成果による知的財産の特許の出願数も平成 18 年度は 10 件で、3 年間で契約数が 6 件あった。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の交付は平成 19 年度に 3 億 6,000 万円であり、高いレベルを維持している。競争的外部資金についても、21 世紀 COE プログラム等に対して多くの資金が交付されている。論文数、研究資金の獲得状況、知的財産権の出願及び取得状況は極めて優位な状態を示していることは、優れた成果である。

以上の点について、歯学部・歯学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、歯学部・歯学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

### 2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、21 世紀 COE プログラム「フロンティアパイオデントイストリーの創生」と連動し、歯学研究の 6 分野を重点項目として取り組んできた。研究成果を示す国際誌に発表された論文数は世界トップクラスと評価できる。社会、経済、文化面では、う蝕と歯周病に対する新規治療法の研究成果を市民公開講座を通じて

毎年発信されている。さらに平成 18 年では研究科の構成員が 16 件の賞を受けており、広い分野にわたる優れた研究が世界的業績として高く評価されていることは、優れた成果である。

以上の点について、歯学部・歯学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、歯学部・歯学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が 5 件、「高い質（水準）を維持している」と判断された事例が 2 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。